『世界の日本語教育』11, 2001年6月

現代日本語における文末表現の主観性
——ヨウダ，ソウダ，ベキダ，ツモリダ，カモシレナイ，ニチガイナイを対象に——

杉村　泰*

キーワード:　ヨウダ，ソウダ，ベキダ，ツモリダ，カモシレナイ，ニチガイナイ

要　旨

本稿は「ヨウダ」,「ソウダ」,「ベキダ」,「ツモリダ」,「カモシレナイ」,「ニチガイナイ」を対象に，現代日本語における文末表現の主観性の違いについて考察したものである．従来，これらの表現は全てモダリティに分類され，命題に対する話し手の主観的態度を表すと説明されてきた．

これに対し本稿では，先行研究とは異なり「ヨウダ」(推量)と「ニチガイナイ」はモダリティとして機能するが，「ヨウ-ダ」(比況),「ソウ-ダ」,「ベキ-ダ」,「ツモリ-ダ」,「カモシレナイ-ϕ」は，「ϕ/ダ」を除く部分は命題として機能すると考える．その証拠として「ヨウダ」(推量)と「ベキダ」を例に説明すると，「ヨウダ」(推量)が判断の対象とならないのに対し，「ベキダ」は判断の対象となるということが指摘できる．

（1）　a. *[政府が景気対策をするヨウ]デハナイ．
　　b. [政府が景気対策をするベキ]デハナイ．

（2）　a. *国民は[政府が景気対策をするヨウ]かどうかを考えた．
　　b. 国民は[政府は景気対策をするベキ]かどうかを考えた．

こうした事実により，本稿では「ヨウ」(比況),「ソウ」,「ベキ」,「ツモリ」,「カモシレナイ-」は命題表現であることを主張する．

1. はじめに

従来，日本語の文末表現「ヨウダ」,「ソウダ」,「ベキダ」,「ツモリダ」,「カモシレナイ」,「ニチガイナイ」は，話し手の主観的な態度を表すモダリティ表現であるとされてきた[1]．これに従う

* SUGIMURA Yasushi:　名古屋大学大学院国際言語文化研究科助手．

[1] 日本語の文末表現について扱った研究には金田一 (1953)，北原 (1981)，澤田 (1980, 1983) をはじめ多数ある．このうち金田一 (1953) は「ソウダ」や「ツモリダ」などを客観的な表現としている点で本稿と共通するが，「ソウ-ダ」や「ツモリ-ダ」のようには考えていない点で本稿と異なる．北原 (1981) はいわゆる助動詞の相互承接関係を分析し日本語構文の階層性を詳述した．北原の研究は「ソウダ」を

と (1) の各文末表現は「太郎が話す」という命題に対する話し手の判断を表したものであるということになる.

(1) a. (どうも)太郎が話すヨウダ.
b. (まるで)太郎が話すヨウダ.
c. 太郎が話しソウダ.
d. 太郎が話すベキダ.
e. 太郎が話すツモリダ.
f. 太郎が話すカモシレナイ.
g. 太郎が話すニチガイナイ.

これに対し本稿では「ヨウダ」(比況),「ソウダ」,「ベキダ」,「ツモリダ」は「ヨウ-ダ」,「ソウ-ダ」,「ベキ-ダ」,「ツモリ-ダ」のように分解され,前半部分は命題,後半部分はモダリティとして機能することを主張する.すなわち,(1) の各表現は次のような構造を持つと考える.

(2) a. [[[太郎が話す]ヨウダ(推量) / カモシレナイ / ニチガイナイ]]
b. [[[太郎が話しソウ,話すヨウ(比況) / ベキ / ツモリ]ダ]]

その証拠に「ヨウダ」(推量),「カモシレナイ」,「ニチガイナイ」は判断の対象とならないが,「ヨウダ」(比況),「ソウダ」,「ベキダ」,「ツモリダ」は判断の対象となる.(次の前三つは「[太郎が話す]かどうかを確かめる」と言う必要がある.)

(3) a. *[太郎が話すヨウ]かどうかを確かめる.(推量)
b. *[太郎が話すカモシレナイ]かどうかを確かめる.
c. *[太郎が話すニチガイナイ]かどうかを確かめる.
d. [太郎が話すヨウ]かどうかを確かめる.(比況)
e. [太郎が話しソウ]かどうかを確かめる.
f. [太郎が話すベキ]かどうかを確かめる.
g. [太郎が話すツモリ]かどうかを確かめる.

こうした事実から「ヨウダ」(比況),「ソウダ」,「ベキダ」,「ツモリダ」にとってモダリティと言えるのは「-ダ」の部分のみであることが分かる.

また,一般に「ニチガイナイ」と「カモシレナイ」は蓋然性の高低を表し分ける表現であるとされているが,「ニチガイナイ」が推量判断専用に使われるのに対し,「カモシレナイ」は推量判

「ソウ」と「-ダ」に分離して考えるなどの点で本稿と一致するが,「値段が高いようだ」と「値段が高そうだ」をパラレルに考えるなど細部で違いがある(「値段が高かったようだ」とは言えるが「値段が高かったそうだ」とは言えない).澤田 (1980, 1983) は日本語の統語構造を客観的な基準によって分析し,これを主文と補文の関係として捉えた点で価値のある研究である.しかし,意味的にはボイス,肯定・否定(極性),テンスのどれが上位ということは一概に言えない.また,澤田は「カモシレナイ」,「ニチガイナイ」,「ダロウ」,「ソウダ」(伝聞)を同列に扱っているが,「カモシレナイ-ダロウ / ソウダ」などと言えることからも分かるように,これらの中での違いについて考える必要がある.

断だけでなく一般的事実を表す場合にも使われるという違いがある．たとえば，(4) は量子力学において電子の経路には複数の可能性が共存するという真理を述べているにすぎず，そのことについて話し手の推論が関与しているわけではない．

（４） 電子は，たとえばＡから出発してまっすぐにＯまで来たのかもしれないし，ぐるっとまわり道をしてＯにたどりついたのかもしれない．これらすべての可能性を加えてはじめて，現在電子がＯにある状態の共存度が計算できるのである．（和田純夫『量子力学が語る世界像』）

こうした例の存在から，本稿では「カモシレナイ」は当該の事態[2]の成立が確実であるとする「ϕ/ダ」[3] と対になり，複数の事態の成立可能性が共存することを表す表現であると考える．

以下，各文末表現の主観性について論じていく[4]．

2. 主観性について

文は，話し手が切り取った客体世界の事態を描く「命題」と，発話時点における話し手の心的態度を表す「モダリティ」とから成る．本稿では前者を「客観的」，後者を「主観的」であるという．「命題」は話し手の存在とは独立に客体世界に存在するものであるという意味で「客観的」な表現であり，「モダリティ」は発話時点における話し手の心的態度に依存するという意味で「主観的」な表現である[5]．

「モダリティ」はさらに，話し手による客体世界の把握の仕方と関わる「命題態度のモダリティ」と，話し手の発話態度と関わる「発話態度のモダリティ」とに分かれる．この三者の関係は (5) のように「発話態度のモダリティ」の中に「命題態度のモダリティ」と「命題」が順次埋め込まれていく構造となっている．

（５） [[[命題]命題態度のモダリティ]発話態度のモダリティ]

たとえば，図１において話し手は客体世界に「かわいい猫」という対象を発見し，そのことを

---

[2] 本稿でいう「事態」には「状態」(state)，「過程」(process)，「行為」(action) を含むものとする．

[3] 「ϕ」と「ダ」は交替形の関係にある．「ϕ」が動詞型活用の語や形容詞型活用の語につくのに対し，「ダ」は名詞や形容動詞型活用の語につく．

[4] 筆者の研究は主観・客観の二分類自体を目的としたものではなく，一般に単一の成分として扱われる「ソウダ」などの表現を「ソウ-ダ」のように捉えることにより，個々の形式の意味がより精密に記述できることを主張するものである．その意味で後述の仁田，益岡，森山，三宅，木下などの研究の基礎の上に意味記述を進めたものである．

[5] この点で本稿はモダリティにも主観的なものと客観的なものとがあるとする益岡 (1987) や仁田 (1991) とは異なる．いわゆる客観的なモダリティは客体化されている以上「命題」と呼ぶのがふさわしいと考える．こうした考え方に従うと，「ヨウダ」は「命題」(比況)としても「モダリティ」(推量)としても使われる表現であると説明できる．同様に同じ「ト思ウ」でも「こんな雪の日には子供に返ったト思ウコトがある」の「ト思ウ」は「命題」として使われ，「今ごろ故郷では雪が降っているト思ウ」の「ト思ウ」は「モダリティ」として使われると説明できる．

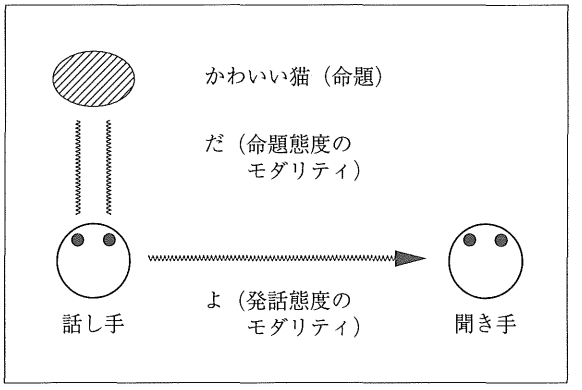

図1 「かわいい猫だよ！」の発せられた状況

聞き手に「かわいい猫だよ！」と伝えている．

このうち「かわいい猫」は客体世界について述べたものであるため「命題」に分類される．一方，「だ」は「かわいい猫」に対する話し手の真偽判断を表したものであるため「命題態度のモダリティ」に分類され，「よ」は話し手が「かわいい猫だ」という判断を聞き手に伝える表現であるため「発話態度のモダリティ」に分類される．結局この文は「何々ダヨ」というモダリティの中に「かわいい猫」という命題が埋め込まれた構造となっている．

ここで注意しておきたいのは，判断の対象を「小さな」や「愛らしい」あるいは「子猫」や「犬」ではなく，まさに「かわいい猫」と捉えたことも話し手の主観によると言えなくもないということである．しかし，本稿ではこれは話し手が客体世界の事態として切り取ったものであるという意味で「客観的」な成分であると考える．

モダリティは発話時点における話し手の心的態度を表すため，真偽の対象とならず，連体修飾成分とならず，過去文の中に収まらないという性質をもつ．一方，命題は客観的な成分であるためこうした制限は加わらない．そこで，本稿では命題とモダリティの分類基準として，①否定の対象となるかどうか(否定テスト)，②疑問の対象となるかどうか(疑問テスト)，③連体修飾成分となるかどうか(連体修飾テスト)，④過去文の中に収まるかどうか(過去テスト)の四つの主観性判定テストを実施する．これらのテストで適格となるものは「命題」に属し，不適格となるものは「モダリティ」に属すと考える．

3. 「ヨウダ」と「ソウダ」

3–1. 比況の「ヨウダ」と推量判断の「ヨウダ」

まず比況の「ヨウダ」と推量判断の「ヨウダ」の主観性の違いについて論じる．次の（6a）は

比況の例で，「あの人の歩き方」と「男の歩き方」とが近い関係にあることを表している．この場合，話し手は「あの人」が「男」でないことは知っており，単に両者が似た様態にあることを述べているにすぎない．一方，(6b) は推量判断の例である．この場合，話し手は発話時点で「あの人」の性別が分かっておらず，「あの人の歩き方」に「男の歩き方」のもつ属性が見られることを根拠に，「男」であると推量判断したことを表している．

（６） a. あの歩き方を見ると，あの人はまるで男のヨウダ．（比況）

b. あの歩き方を見ると，あの人はどうやら男のヨウダ．（推量）

比況も推量判断も，A と B が X という共通の属性をもつことを根拠に，A が B と近接関係にあることを表す表現である．この点で両者は共通の性質を示す．したがって，両者は (7) のように一般化して表すことができる．

（７） 根拠 X により，A は B (の)ヨウダ．

ここで確認しておきたいのは，比況の「ヨウダ」と推量判断の「ヨウダ」が意味的に連続した表現であるということである．その証拠に，比況と推量判断のいずれか一方の解釈しかできない例がある一方で，どちらの解釈にもなりうる中間的な例も存在する．次の (8) は比況の例，(9) は推量判断の例，(10) は中間的な例である．

（８） a. あたりは真暗　濡れた毛布のせいで気持ちは悪いし手足は氷のよう(山岸凉子『スピンクス』)

b. 濡れた毛布のせいで気持ちは悪いし手足はマルデ氷のヨウダ．

c. *濡れた毛布のせいで気持ちは悪いし手足はドウヤラ氷のヨウダ．

（９） a. 久光は，これまでのいきさつから，このような動きに心おだやかならぬものがあったようだ．(毛利敏彦『大久保利通』)

b. *このような動きにマルデ心おだやかならぬものがあったヨウダ．

c. このような動きにドウヤラ心おだやかならぬものがあったヨウダ．

（10） a. ひんやりとした風の中に，微かに潮の香りを感じた．この半島では，町中をも海が包んでいるようだった．(吉本ばなな『TUGUMI』)

b. この半島では，マルデ町中をも海が包んでいるヨウダッタ．

c. この半島では，ドウヤラ町中をも海が包んでいるヨウダッタ．

両者はこうした共通点をもつ一方で，主観性の点では比況の「ヨウダ」が客観的な性質を見せるのに対し，推量判断の「ヨウダ」は主観的な性質を見せるという違いがある．このことを主観性判定テストによって証明する．

まず，否定テストにおいて比況の「ヨウダ」が否定の対象となるのに対し，推量判断の「ヨウダ」は否定の対象とならないという違いがある．

（11） a. あの女は力は強いが，性格まで男のヨウではない．

b. *現場の状況から察するに，犯人は男のヨウではない．

犯人が男でないことを推量する場合には，否定の「ナイ」が「ヨウダ」の内側に来るのが自然である．

(12) 現場の状況から察するに，犯人は男ではないヨウダ．

同様に，疑問テストにおいても比況の「ヨウダ」が疑問の対象となるのに対し，推量判断の「ヨウダ」は疑問の対象とはならない．推量判断は発話時点における話し手の心的態度を表したものであるため，否定や疑問などの真偽の対象とはなりえないのである．

(13) a. あの女の性格は男のヨウですか？

b. *犯人の性別は男のヨウですか？

また，連体修飾テストにおいても比況の「ヨウダ」が連体修飾成分となるのに対し，推量判断の「ヨウダ」は連体修飾成分とはならない．

(14) a. 男のヨウナ女

b. *男のヨウナ犯人

(14a) に示されるように，比況の「ヨウダ」は「B (の)ヨウナ A」という形で連体修飾成分となり，A, B 別々のものに X という共通の属性を見つけ，それを根拠に A が B と似た性質を示すことを表す．「猿のヨウナ顔」，「氷のヨウナ心」，「鈴を転がすヨウナ美しい声」，「見てきたヨウナ嘘の話」なども同様である．この A と B の関係が上位語と下位語の関係になり，A の特徴を B によって説明したのが例示の「ヨウダ」である．「東京のヨウナ大都会」，「サイダーのヨウナ炭酸飲料」などがそうである．

一方，推量判断の「ヨウダ」は一般に連体修飾成分とはならないが，話し手の直感的な感覚を表す表現が続く場合には連体修飾成分となる．

(15) 少女は今年のクリスマスは雪が降るヨウナ気がしている．

(16) 去年のクリスマスは雪が降るヨウナ気がした．

(17) 今年のクリスマスは雪が降るヨウナ気がする．

このうち (15) のように第三者の心的態度を表したり，(16) のように過去の心的態度を表す場合には客観的表現であることが明確である．しかし，(17) のように発話時における話し手の心的態度を表す場合には，「ヨウナ気ガスル」全体がモダリティとして機能する．こうした表現が短縮されて「ヨウダ」一語で表されるようになったものが推量判断の「ヨウダ」であると考えられる．(「ヨウナ予感ガスル / 直感ガスル / 感ジガスル」なども同様.)

最後に過去テストを行う．(18a) と (18b) を見る限り，比況の「ヨウダ」も推量判断の「ヨウダ」もともに過去文の中に収まるように思われる．

(18) a. あの女の性格は男のヨウダッタ．

b. 犯人の性別は男のヨウダッタ．

しかし，(18b) は「犯人は男のヨウダ(と思われる状況が発話時点以前にあ)ッタ」の意味であり，「ヨウダ」は引用節の中で現在を表していると考えられる．このことは比況の場合には「以前は男のヨウダッタけど今は違う」と言えるが，推量判断の場合にはそのように言えず，「以前は男のヨウダと思ったけど今は違う」のように「と思う」の引用節に入れなければならないことから証明できる．推量判断の「ヨウダ」を過去文の中に収めるには，「～(の)ヨウダと思った」のように言う必要がある．

以上，**3–1.** では比況の「ヨウダ」が客観的な表現であるのに対し，推量判断の「ヨウダ」は主観的な表現であることを指摘した．

3–2. 「ヨウダ」と「ソウダ」

次に推量判断の「ヨウダ」と兆候や様相の現れを表す「ソウダ」の主観性の違いについて論じる[6]．一般に「ソウダ」はモダリティ表現であるとされているが[7]，主観性判定テストの結果から命題表現であることが証明される．

(否定テスト)	:	雨が降りソウニナイ	おいしソウデハナイ
(疑問テスト)	:	雨が降りソウか	おいしソウか
(連体修飾テスト)	:	雨が降りソウナ気配	おいしソウナ匂い
(過去テスト)	:	雨が降りソウダッタ	おいしソウダッタ

本稿では「ソウダ」は兆候や様相の現れを表し，前接する成分と一体となって一つの形容動詞として機能する表現であると考える．すなわち，「ソウダ」は推量を表す表現ではないと考える．その証拠に，単に眼前の様相を述べる文では推量の意味が入らない．

(19) 人々はみな髪を光にすかして幸福そうにすれ違ってゆく．(吉本ばなな『ムーンライト・シャドウ』)

(20) 警察署を出ると，曇った空は，いまにも雨が降りだしそうだった．(松本清張『ゼロの焦点』)

推量の意味が感じられるのは，未実現・未確認の事態を推論する文脈である．しかし，その場合にも推量の意味は「推量文」という構文に委ねられ，「ソウダ」自体は兆候や様相の現れを表すにすぎない．たとえば，次の (21) と (22) では「横綱が実現しソウ(に思われる)」や「設備がよさソウ(に思う)」の表現上隠された部分が推量の意味を担っている．一方，「ソウダ」は「実現

[6]「ヨウダ」と「ソウダ」に関するさらなる議論は杉村 (2000) を参照．

[7] 寺村 (1984)，中畠 (1991)，三原 (1995)，野田 (1995) は「概言のムード」，仁田 (1989, 1991) は「判断のモダリティ」，三宅 (1994) は「認識的モダリティ」としている．これに対し，森山 (1989: 63–64) は「アスペクト的な意味に極めて近い．そもそも，連用形につくということ自体，意味的にも，形態的にも，前述のような認識的ムード形式にあわない」と述べ，小林 (1980) も推量のモードゥスから除外している．ただし，森山も小林もそれ以上の考察はしていない．

しそうな横綱への夢」や「設備がよさそうな教習所」のように連体修飾成分となることから，命題として機能することが分かる．

（21） これで横綱への夢もどうやら実現しそうです．（NHK 総合「大相撲夏場所千秋楽」1999. 5. 23）

（22） 「教習所ここにしようかと思って　家からも近いし設備もよさそうだし」（臼井儀人『クレヨンしんちゃん④』）

以上，**3–2.** では推量判断の「ヨウダ」が主観的な表現であるのに対し，兆候や様相の現れを表す「ソウダ」は客観的な表現であることを指摘した．

4. 「ヨウダ」と「ベキダ」

次に推量判断の「ヨウダ」と当為表現[8]の「ベキダ」の主観性の違いについて論じる[9]．益岡（1987）は「ヨウダ，ラシイ，ニチガイナイ，カモシレナイ，ダロウ」などを「真偽判断のモダリティ」，「ベキダ，ホウガヨイ，テモヨイ，ナケレバイケナイ，テハイケナイ」などを「価値判断のモダリティ」と呼び，ともに「判断のモダリティ」（本稿でいう「命題態度のモダリティ」）に属すとした．この考え方に従うと，次の（23）～（25）の各文末表現は，いずれも「政府は景気対策をする」という命題に対する判断を表した表現であるということになる．

（23） 政府は景気対策をする ϕ.

（24） 政府は景気対策をするヨウダ．

（25） 政府は景気対策をするベキダ．

しかし，（23）（24）の命題と（25）の命題とは異なると思われる．なぜならば（23）と（24）が「政府は景気対策をするかどうか」という質問に対する答であるのに対し，（25）は「政府は景気対策をするベキかどうか」という質問に対する答だからである．すなわち，前者が「政府は景気対策をする」という命題について「ϕ」，「ヨウダ」という判断を下した表現であるのに対し，後者は「政府は景気対策をするベキ」という命題について「ダ」という判断を下した表現なのである．以下，「ヨウダ」が主観的な表現であるのに対し，「ベキダ」は客観的な表現であることを主観性判定テストによって証明する．

まず第 1 に「ヨウダ」は否定の対象とならないが，「ベキダ」は否定の対象となる[10]．

---

[8] 本稿の「当為表現」は益岡（1987, 1991）の「価値判断」，森山（1989）の「策動的判断〔必要 / 意図 / 願望〕」，中右（1994）の「拘束判断」に対応する．しかし，本稿ではこれをモダリティとは考えないため「判断」という言い方を避け「当為表現」と呼ぶ．ただし，「ベシ」の形は命令態度で使われるためモダリティであると考える（「政府は景気対策をするベシ」）．

[9] 「ヨウダ」と「ベキダ」に関するさらなる議論は杉村（2001a）を参照．

[10] より詳しく説明すると，「何々するベキデハナイ」で否定されているのは「何々するベキかどうか」と

(26) a. *政府は景気対策をするヨウではない.

b. 政府は景気対策をするベキではない.

逆に否定の「ナイ」を「ヨウダ」や「ベキダ」の内側に持ってくると,「ヨウダ」の文が適格となるのに対し「ベキダ」の文は非文となる.

(27) a. 政府は景気対策をしないヨウダ.

b. *政府は景気対策をしないベキダ.

第2に「ヨウダ」は疑問の対象とならないが,「ベキダ」は疑問の対象となる.

(28) a. *政府は景気対策をするヨウですか.

b. 政府は景気対策をするベキですか.

第3に「ヨウダ」は連体修飾成分とならないが,「ベキダ」は連体修飾成分となる.

(29) a. *政府がするヨウナ景気対策

b. 政府がするベキ景気対策

第4にテンスとの関係において次の二つの違いが見られる.一つは,すでに論じたように「ヨウダ」が引用節の中で現在を表すのに対し,「ベキダ」は「(発話時点以前に)何々するベキ状況があった」という意味で自然に過去文の中に収まる点である.

(30) a. 政府は景気対策をするヨウだった.

b. 政府は景気対策をするベキだった.

もう一つの違いは,「ヨウダ」の前接部分にはテンスが分化するのに対し,「ベキダ」の前接部分にはテンスが分化しないという点である.前接部分がル形の場合にはその違いが見えにくいが,タ形の場合にはその違いがはっきりする.

(31) a. 政府は景気対策を{する / した}ヨウダ.

b. 政府は景気対策を{する / *した}ベキダ.

「ヨウダ」の場合,未実現の事態に対する推量判断を表すときには前接部分がル形となり,既成の事態に対する推量判断を表すときには前接部分がタ形となる.一方,「ベキダ」の場合,未実現の事態に対する当為を表すときには「ベキダ」自体がル形となり,既成の事態に対する当為を表すときには「ベキダ」自体がタ形となる.

(32) a. 政府は景気対策をするベキ{だ / ではない}.

b. 政府は景気対策をするベキ{だった / ではなかった}.

こうした事実により,「ヨウダ」の前接部分には肯定・否定(極性)やテンスが分化するが,「ベキダ」の前接部分にはそれらが分化しないことが明らかとなる.一見同じように見える「景気対策をする」という形でも,「ヨウダ」の前接部分と「ベキダ」の前接部分とでは性質が異なってい

いった事態の当為性である.「何々するベキダ」という肯定表現を否定する場合には,「一概に何々するベキだとは言えない(しなくてもよい)」などのように言う必要がある.

るのである．益岡は命題の外側を順次上位のモダリティが包んでいくというモダリティ観に立っているが，これとは逆に，上位のモダリティの中に下位のモダリティや命題が埋め込まれていくというモダリティ観に立つことにより，こうした事実が見えてくるのである．

益岡（1987，1991）は「ϕ」，「ヨウダ」，「ベキダ」を並行的に捉えているが，前二つが真偽判断を表すモダリティ表現であるのに対し，最後のものは当為を表す命題表現である．事実，「ϕ」と「ヨウダ」が「確言」と「概言」という真偽判断内部での対立となっているのに対し，「ϕ」と「ベキダ」は当為表現内部での対立ではなく，「非当為表現」と「当為表現」の対立となっている．当為表現内部での対立を問題にするならば，「ホウガイイ」や「ナケレバイケナイ」などと比べる必要がある．

（33） a. 政府は景気対策をしたホウガイイ．

b. 政府は景気対策をしナケレバイケナイ．

また，益岡（1991）は真偽判断と価値判断がパラディグマティックな関係にあるとしているが，次に示されるように両者は明らかにシンタグマティックな関係にある．

（34） a. 政府は景気対策をするベキ-ダ．

b. 政府は景気対策をするベキ-カモシレナイ．

（35） a. 政府は景気対策をしたホウガイイ-ϕ.

b. 政府は景気対策をしたホウガイイ-ヨウダ．

以上，**4.** では推量判断の「ヨウダ」が主観的な表現であるのに対し，当為表現の「ベキダ」は客観的な表現であることを指摘した．

5. 「ツモリダ」

次に意志を表す「ツモリダ」，「(ヨ)ウ」，「ϕ（意志）」の主観性の違いについて考察する．益岡・田窪（1992）など一般に「ツモリダ」は意志のモダリティを表すとされるが，本稿では命題に属すと考える．なぜならば同じ意志の表現である「(ヨ)ウ」や「ϕ（意志）」に比べて客観的な性質を示すからである．

まず，「(ヨ)ウ」と「ϕ（意志）」は主体が話し手の場合に限って適格となる[11]．

（36） a. {私 / あなた / 彼}は警察に出頭するツモリダ．

b. {私 / *あなた / *彼}は警察に出頭しヨウ．

c. {私 / *あなた / *彼}は警察に出頭する ϕ.

しかも「(ヨ)ウ」はタ形やテイル形をもたず，「ϕ（意志）」もル形でしか使えない．

[11] 小坂（1999: 352）に「「～(よ)う」には過去形がない．すなわち，「～(よ)う」は発話時だけにおける話者の意志を述べる表現である．文の主語が話者の場合に限って文法的になる」との指摘がある．

(37) a. 私は警察に出頭する{ツモリダ / ツモリダッタ / ツモリデイル}.

b. 私は警察に出頭し{ヨウ / *ヨウタ / *ヨウテイル}.

c. 私は警察に出頭{する ϕ / *した ϕ / *している ϕ}.

実際，(37c) の「私は警察に出頭した」や「私は警察に出頭している」は客観的な事実として述べられており，意志の意味は入らない．したがって，「(ヨ)ウ」と「ϕ (意志)」は常に発話時における話し手の意志を表すことが分かる．

こうした事実により，「(ヨ)ウ」と「ϕ (意志)」はモダリティ表現であることが証明される．次に「(ヨ)ウ」文と「ϕ (意志)」文の構造を示す．

(38) [[[命題] (ヨ)ウ，ϕ (意志)]]

ここで問題となるのは，「ツモリダ」がル形をとり，主体が話し手自身となる場合である．この場合，「ツモリダ」は話し手の意志を表すモダリティであるかのように見える．しかし，この場合に「ツモリダ」は瞬間的現在時ではなく持続的現在時を表す．

(39) 警察に出頭するのかしないのか今ここで決めなさい．

a. *——よし決めた．それじゃあ，私は警察に出頭するツモリダ．

b. ——よし決めた．それじゃあ，私は警察に出頭しヨウ．

c. ——よし決めた．それじゃあ，私は警察に出頭する ϕ.

(40) a. 前々から私は警察に出頭するツモリダ．

b. *前々から私は警察に出頭しヨウ．

c. *前々から私は警察に出頭する ϕ.

中右 (1994) の指摘にもあるとおり，モダリティは持続的現在時ではなく，瞬間的現在時の話し手の心的態度を表したものである．それは，持続的現在時の心的態度は発話の瞬間のものではなく，客体化された表現だからである．実際，「ツモリダ」は否定の対象にも，疑問の対象にも，連体修飾成分にもなる．

(41) a. 警察に出頭するツモリはない．

b. 警察に出頭するツモリですか？

c. 警察に出頭するツモリの容疑者

以上，**5.** では意志を表す表現のうち「(ヨ)ウ」と「ϕ (意志)」が主観的な表現であるのに対し，「ツモリダ」は客観的な表現であることを指摘した．

6. 「カモシレナイ」，「ニチガイナイ」，「ϕ / ダ」

6–1. 「カモシレナイ」と「ニチガイナイ」

次に「カモシレナイ」と「ニチガイナイ」の違いについて論じる．一般に「カモシレナイ」は

蓋然性の低いことを表し，「ニチガイナイ」は蓋然性の高いことを表すとされてきた．しかし，両者は単なる蓋然性の高低といった「量的」な違いではなく，推論過程を経るかどうかといった「質的」な違いとして捉える必要がある[12]．

第1にすでに寺村（1984）に指摘のあるように，「カモシレナイ」が対話文で普通に使えるのに対し，「ニチガイナイ」は普通独白的に使われるという違いがある．たしかに，演劇やドラマでは対話文で「ニチガイナイ」の使われることもある．しかし，一般の会話では不自然な感じがする．これについて三宅（1993），森山（1995），木下（1999）は，「ニチガイナイ」が対話文に使えないのは発言に責任を要する場面においてであると主張している．しかし，次のように話し手の発言に責任の求められない場面でも，「ニチガイナイ」を使うと不自然な表現となる．

（42） ライオンとトラはどちらが強いと思いますか．自由に述べてください．

a. ——ライオンです ϕ.

b. ——ライオンカモシレナイし，トラカモシレマセン．

c. ?——ライオンニチガイアリマセン．

d. ——ライオンニキマッテイマス．

森山は次の表現が成立することを根拠に上の主張を行っている．しかし，これは瞬間的現在時の話し手の推量判断を表したものではなく，検査の結果すでにこの病気が肺繊維症であると断定したことを「間違いない」と主張した表現である．

（43） 今までいろいろ検査をしましたが，この病気は肺繊維症にちがいありません．（森山（1995）の例文（45））

その証拠に，この「ニチガイナイ」は「に間違いない」との置き換えが可能である．これは推量判断の「ニチガイナイ」を「*きっと明日は雨に間違いない」のように置き換えることができないのとは対照的である．この「ニチガイナイ」は「に＋違い＋ない」と分解され，もとの「違い」という名詞の機能が働いている客観的な表現である．したがって，同じ「ニチガイナイ」でも（44）のように「に間違いない」と置き換えられる表現は対話文でも自然に使える．

（44） これネコの子みたいだけど本当にライオンなの？

——ライオンニチガイアリマセン．

第2に「カモシレナイ」は推量判断だけでなく一般的事実を表す場合にも使われるのに対し，「ニチガイナイ」はそれができないという違いがある．

（45） a. 宝くじというものは，当たるカモシレナイし当たらないカモシレナイものだ．

b. *宝くじというものは，当たらないニチガイナイものだ．

---

[12] 紙幅の関係上「カモシレナイ」と「ニチガイナイ」についての詳しい議論は杉村（2001b）に譲ることにする．

(46) a. 飲めば死ぬカモシレナイ薬

b. *飲めば死ぬニチガイナイ薬

(47) a. 「この中で，買えるかも知れない範囲の部屋があるのは，この二つですな」(曾野綾子『太郎物語』)

b. *「この中で，買えるニチガイナイ範囲の部屋があるのは，この二つですな」

(45a) は宝くじは当たることもあれば当たらないこともあるという一般的事実を表している．一方，(45b) は適格な文として容認することはできない．両者が単に蓋然性の違いによって対立するのなら，「カモシレナイ」よりも蓋然性の高いことを「ニチガイナイ」によって表すことができるはずであるが，そうはならないのである．以下も同様である[13]．

第3に伝聞文において「カモシレナイ」は伝聞の対象となるが，「ニチガイナイ」は伝聞の対象とならないという違いがある．

(48) a. 雨が降るカモシレナイそうだ．

b. ?雨が降るニチガイナイそうだ．

これに関して仁田 (1991: 61) は，「「～するかもしれないそうだ」に比べて，「～するにちがいないそうだ」は容認可能性がかなり落ちるものと思われる．「～ニチガイナイ」は，「～カモシレナイ」に比べて第三者の心的態度の表現になることは難しい」と論じている．第三者の心的態度というのは本稿の立場では命題となる．こうした事実から「カモシレナイ」は客観的な用法をもつため伝聞の対象となり，「ニチガイナイ」は客観的な用法をもたないため伝聞の対象とならないと考えられる．

一般に「カモシレナイ」と「ニチガイナイ」はモダリティを表すとされる．たしかに，両者は主観性判定テストにおいて否定の対象にも疑問の対象にもならず，過去文にも収まりにくい．タ形の使われる場合は文章語的なニュアンスを帯び，「何々カモシレナイ / ニチガイナイ(という状況が発話時点以前にあっ)タ」の意味となる．過去の判断を表す場合には，「何々{カモシレナイ / ニチガイナイ}と思った」のように引用文の形で言うのが自然である．したがって，たしかに両者はモダリティとして機能すると言える．

(否定テスト)　: *雨が降るカモシレナクナイ　*雨が降るニチガイナクナイ

(疑問テスト)　: ?雨が降るカモシレナイか　*雨が降るニチガイナイか

(連体修飾テスト): 雨が降るカモシレナイ空模様　?雨が降るニチガイナイ空模様

(過去テスト)　: ?雨が降るカモシレナカッタ　?雨が降るニチガイナカッタ

しかし，連体修飾において「カモシレナイ」は客観的な用法ももつ．事実，「ニチガイナイ」の場

[13] (47b) が言えると感じる人は，「買えるニチガイナイ(と思われる)範囲の部屋」のように「と思われる」の省略表現として言っていると思われる．そうした表現を補わずに言うと (47a) に比べて容認度が落ちるであろう．

合は「雨が降るニチガイナイ(と思われる)空模様」のように常に「と思われる」を補って考える必要があるのに対し,「カモシレナイ」は推論を経る文脈では「と思われる」が必要であるが,推論を経ず一般的事実として「雨が降るカモシレナイし降らないカモシレナイ中途半端な空模様」と言う場合には「と思われる」は必要ない.

こうしたことから,「カモシレナイ」は意味的に「カモシレナイ-ϕ」と分解され,客観的な「カモシレナイ-」と主観的な「-ϕ」とからなると仮定される.そうすると,文末では「-ϕ」がモダリティの力を発揮するが,連体修飾するときは「-ϕ」がとれて客観的な表現となると考えられる.同様に(48a)は「雨が降るカモシレナイ-そうだ」と分解され,伝聞のモダリティ「〜ソウダ」の中に「雨が降るカモシレナイ」という命題の埋め込まれた文であると分析できる.一方,「ニチガイナイ」は形式全体がモダリティとして機能するため伝聞の対象とならない[14].

以上,**6–1.** では「カモシレナイ」と「ニチガイナイ」に蓋然性の高さの違いでは説明のできない「質的」な違いのあることを指摘した.

6–2. 「カモシレナイ」と「ϕ / ダ」

一方,本稿では「カモシレナイ」と「質的」に同じ表現は「ϕ / ダ」であると考える.両者は事態の成立可能性を複数認めるか,一つしか認めないかという点で「量的」に対立する.しかし,一般的事実を表す文,推量文[15],伝聞文のいずれにも使えるなど「質的」には共通する.先の(45)〜(48)と次の(49)(50)の容認度の比較からもそのことが分かる.

(49) a. 宝くじというものは,当たらないものだ.
　　 b. 飲めば死ぬ薬
　　 c. 「この中で,買える範囲の部屋があるのは,この二つですな」

(50) a. 雨が降るそうだ.

こうした例の存在から,「カモシレナイ」は当該の事態の成立が確実であるとする「ϕ / ダ」と対になり,複数の事態の成立可能性が共存することを表す表現であることが分かる[16].

さて,ここで考えたいのは「複数の事態の成立可能性が共存する」とか「一つの事態の成立可

---

[14] 同様に推量判断の「ヨウダ」も伝聞の対象とならない.一方,比況の「ヨウダ」や「に+違い+ない」は客観的な成分であるため伝聞の対象となる.

[15] 天気予報など推量を表す文脈で「明日は雨が降るカモシレナイ」とか「明日はキット雨が降る ϕ / 雨ダ」と言った場合,「カモシレナイ」や「ϕ / ダ」自体が推量を表すように感じられる.しかし,「カモシレナイ」や「ϕ / ダ」自体はあくまでも複数の可能性が共存するかしないかということを表すにすぎず,推量の意味は「推量文」という構文に帰せられる.

[16] 「元気-ダ」と「元気-カモシレナイ」,「話すツモリ-ダ」と「話すツモリ-カモシレナイ」,「話さナケレバナラナイ-ϕ」と「話さナケレバナラナイ-カモシレナイ」,「話すベキ-ダ」と「話すベキ-カモシレナイ」などの関係も同じである.(なお,「元気-ニチガイナイ」,「話すツモリ-ニチガイナイ」,「話さナケレバナラナイ-ニチガイナイ」とは言えるが,「話すベキ-ニチガイナイ」とは言えない.この理由はまだよく分からない.)

能性しかない」ということは，話し手の存在とは独立した客体世界のものであるということである．このことから「カモシレナイ」は意味的にさらに「カモシレナイ-ϕ」と分解され，客観的な「カモシレナイ-」と主観的な「-ϕ」とからなると仮定される．つまり，複数の事態が共存するということを「カモシレナイ-」によって表し，そのように認定する話し手の判断を「-ϕ」によって表すと考えるのである．そう考えると，連体修飾したり，「-ϕ」，「-ソウダ」(伝聞)に埋め込まれるのは客観的な「カモシレナイ-」の部分であると説明することができる．これと並行して考えると，「ϕ / ダ」も意味的に「ϕ-ϕ」あるいは「ダ(ナ/ノ)-ϕ」と分解できると思われる[17].

以上，**6–2.** では「カモシレナイ」と「ϕ / ダ」の同質性について論じ，両者が主観的な表現としても客観的な表現としても使われることを指摘した．

7. ま と め

以上の考察の結果，「ヨウダ(推量判断)」と「ニチガイナイ」がモダリティとして機能するのに対し，「ヨウダ(比況)」，「ソウダ」，「ベキダ」，「ツモリダ」は命題として機能することが明らかとなった．より正確に言えば，「ヨウ-ダ(比況)」，「ソウ-ダ」，「ベキ-ダ」，「ツモリ-ダ」の前半部分が命題，後半部分がモダリティとして機能すると説明できる．これは「うれしい-ϕ」，「たのしい-ϕ」，「心配-だ」，「元気-だ」が命題部分とモダリティ部分とに分解できるのと並行した現象である．また，「カモシレナイ」と「ϕ / ダ」は意味的に「カモシレナイ-ϕ」，「ϕ-ϕ」，「ダ(ナ / ノ)-ϕ」と分解され，主観的な表現としてだけでなく，客観的な表現としても使われることを指摘した．

本稿で取り上げた文末表現は，一般にモダリティ表現として扱われてきたが，実際には主観性の点で異質のものが混在している．今後これらの表現の意味分析を進めるに当たって，こうした点に留意する必要があると思われる．

例文出典

臼井儀人『クレヨンしんちゃん④』双葉文庫 / 曾野綾子『太郎物語』新潮文庫の 100 冊 / 松本清張『ゼロの焦点』中央公論社 / 毛利敏彦『大久保利通』中公新書 / 山岸凉子『スピンクス』(『ハトシェプスト』より)文春文庫ビジュアル版 / 吉本ばなな『ムーンライト・シャドウ』(『キッチン』より)角川文庫，『TUGUMI』中公文庫 / 和田純夫『量子力学が語る世界像』講談社ブルーバックス．

参 考 文 献

木下りか (1999) 『文末における「真偽判断のモダリティ」形式の意味』，名古屋大学博士学位論文．
北原保雄 (1981) 『日本語助動詞の研究』，大修館書店．

[17] この点で「ダ」を客観的な表現とした金田一 (1953) の指摘を再認識することが必要である．

金田一春彦（1953）「不変化助動詞の本質——主観的表現と客観的表現の別について」（上）（下）『國語國文』22–2, 3，京都大学文学部.
小坂光一（1999）「意志の客観的描写としての「(よ)うとしている」」『ことばの科学』12，名古屋大学言語文化部.
小林幸江（1980）「推量の表現及びそれと呼応する副詞について」『日本語学校論集』7，東京外国語大学付属日本語学校.
澤田治美（1980）「日本語『認識』構文の構造と意味」『言語研究』78，日本言語学会.
————（1983）「SN システムと日本語助動詞の相互連結順序」『日本語学』2–12，明治書院.
杉村　泰（2000）「ヨウダとソウダの主観性」『言語文化論集』22–1，名古屋大学言語文化部.
————（2001a）「ヨウダとベキダの主観性」『言語文化論集』22–2，名古屋大学言語文化部.
————（2001b）「カモシレナイとニチガイナイの異質性」『言語と文化』2（掲載予定），名古屋大学国際言語文化研究科.
寺村秀夫（1984）『日本語のシンタクスと意味 II』，くろしお出版.
中右　実（1994）『認知意味論の原理』，大修館書店.
中畠孝幸（1991）「不確かな様相——ヨウダとソウダ」『三重大学日本語学文学』2，三重大学日本語学文学会.
仁田義雄（1989）「現代日本語文のモダリティの体系と構造」，仁田義雄，益岡隆志編『日本語のモダリティ』，くろしお出版.
————（1991）『日本語のモダリティと人称』，ひつじ書房.
野田尚史（1995）「現場依存の視点と文脈依存の視点」，仁田義雄編『複文の研究』，くろしお出版.
益岡隆志（1987）「モダリティの構造と意味——価値判断のモダリティをめぐって」『日本語学』6–7，明治書院.
————（1991）『モダリティの文法』，くろしお出版.
益岡隆志，田窪行則（1992）『基礎日本語文法——改訂版』，くろしお出版.
三原健一（1995）「慨言のムード表現と連体修飾語」，仁田義雄編『複文の研究』，くろしお出版.
三宅知宏（1993）「認識的モダリティにおける確信的判断について」『語文』61，大阪大学国語国文学会.
————（1994）「認識的モダリティにおける実証的判断について」『國語國文』63–11，京都大学文学部.
森山卓郎（1989）「認識のムードとその周辺」，仁田義雄，益岡隆志編『日本語のモダリティ』，くろしお出版.
————（1995）「ト思ウ，ハズダ，ニチガイナイ，ダロウ，副詞～ϕ」，宮島達夫，仁田義雄編『日本語の類義表現の文法』（上），くろしお出版.